

## 第2回横浜川崎区の強制水先に関する検討会（議事概要）

日 時：平成26年3月26日(水)14:30～16:45

場 所：中央合同庁舎第2号館16階国際会議室

出席者：石橋委員、糸屋委員、井上委員、今津委員、大村委員 [代理：奥谷氏]、落合委員（座長）、川村委員、小島委員、佐々木委員、下沖委員、杉山委員（座長代理）、中条委員、中島委員 [代理：伊東氏]、福永委員

### 【国土交通省】

竹田審議官、吉永海技課長、今井次席海技試験官、梅野港湾局計画課港湾計画審査官 [代理：池町氏]、住本海上保安庁交通部安全課長

## 1. 議事

- (1) 前回の質問への回答
- (2) 委員からの説明
  - ① 川崎市
  - ② 日本水先人会連合会
  - ③ 一般社団法人日本船主協会
- (3) シミュレーション調査の実施方法
- (4) その他

## 2. 議事概要

### (1) 前回の質問への回答

事務局、外国船舶協会、横浜市から前回の質問への回答について説明を行った。質疑時間がとれなかったため、再質問等があれば、検討会終了後に事務局に連絡することとなった。

### (2) 委員からの説明

- ① 川崎市から説明があり（資料有り）、万一の事故の際には、非常に影響の大きな地域であり、危険物積載船舶が多数航行しているため、仮に緩和される場合には今以上の安全対策が必要になるとの認識が示された。
- ② 日本水先人会連合会から説明があり（資料有り）、横浜航路における操船の困難性が示された。
- ③ 一般社団法人日本船主協会から説明があり（資料有り）、横浜川崎区の強制水先対象船舶の船型を引き上げて欲しいとの要望はしていないとの立場が示された。  
質疑時間がとれなかったため、質問等があれば事務局に連絡することとなった。

### (3) シミュレーション調査の実施方法

事務局からシミュレーション調査の実施方法（案）について説明を行った後、質疑応答を行った。

主な質疑応答及び意見は次のとおり

- 外国人船長のシミュレーションは行わないのか。  
→ 操船シミュレーションには、外国人船長も被験者に立て、操船時間についてのみシミュレーション結果を検討会にお示ししたい。
- 横浜港港湾計画において、本牧ふ頭の沖に整備予定の新規ふ頭が完成した状況でシミュレーションできないか。  
→ 本牧ふ頭の沖に整備予定の新規ふ頭が、いつ、どのように整備されるか未定。また、シミュレーション調査は、現在の港湾の状況でしか行えない。将来の港湾計画についての懸念がある場合には、シミュレーション結果終了後の評価の段階で指摘の点をも含めて審議して頂きたい。
- 操船経験があることを要件としているが、外航船の船長は、水先人に着岸してもらっているため、離着岸の経験を有する被験者がいないのではないか。  
→ 東京港に入港する 10,000 トン以下の船舶は強制水先の対象ではないので、離着岸の経験を有する被験者はいると思う。
- 大黒ふ頭C 1 岸壁は自動車専用船の岸壁であるので、評価船型は自動車専用船とするのか。若しくは、岸壁を変更する必要があるのではないか。  
→ 確認したい。
- バウスラスターを有するコンテナ船とするのか。  
→ 1万トンクラスのコンテナ船には、バウスラスターが付いているのが一般的である。
- シミュレーション調査は時間を要するため、全体スケジュールを考えると4月には契約手続きを行いたい。

会議終了時間を大幅に超過したため、以下につき座長一任の下、対応することとなった。

- ・ 追加の質問・意見があれば事務局に連絡する。
- ・ 川崎港部分のシミュレーションの取扱い、寄せられた意見・質問への回答につき事務局が関係委員と調整する。

### (4) その他

次回は、5月に開催する予定。

次回議事は、「ご質問への回答」、「横浜川崎区で発生した海難の分析」、「委員以外の関係者からヒアリング」を予定。

以上